

## フリースクールでの SW 実践を考える④

高名 祐美

学校が休みのときはフリースクールもお休みとなる。現在、フリースクールは夏休み中。一方で、併設されている学童を利用している子どもたちは、朝から通ってくる。今回は学童の子どもたちに焦点をあててみる。

私の勤務する学童は、現在5名の子どもたちが利用している。小学校3年生の女子が4名、小学校1年生の男子1名である。夏休み中のスケジュールは、あらかじめ1週間単位で管理者とスタッフ、子どもたちで相談して決める。

「行動制限のない夏」。2年間中止されてきた地域の祭りは再開されたりしているが、コロナ感染の拡大はいまだとどまっていない。そのため、学童での行事はできる限り縮小し、室内で過ごす時間が多くなる。また「一緒にクッキング」などの時間も多くとれない状況にある。登校日はオンラインだったり、子どもたちが楽しみにしている学校でのプール日も数日・短時間しか利用できない。家族との旅行もやはり制限しているようだ。「楽しい夏休み」にはならない長期の休み。そんな日々の学童での時間をどう過ごすかがに頭を悩ます。

朝は学習の時間と決めているが、なかなか集中できない。静かに取り組む時間は、ほんの短時間である。学習の時間が終わると、遊びの時間になる。何をして遊ぶかをみんなで話し合うが、なかなか決まらない。Aちゃんは勝負事が嫌い。勝ち負けが生じるゲームやトランプは「やらない」ときっぱり。Bちゃんは鬼ごっこで鬼になることが続くと、泣きベソをかいて遊びが中断される。みんなから「また泣いている」とよく言われている。Cちゃんは自分ひとりで漫画を読んで、みんなとの遊びからすぐにはなれる。漫画を読み始めると他の人の声が耳にはいらぬようだ。Dちゃんは「つまらない!」と叫ぶ。みんなが一致して仲良く遊ぶ時間も短時間である。一日は長く、取り組みそうなことを考えて提案するが、かえってくる言葉は「やだ!」「やらない!」「おもしろくない!」。

じゃあ、どうするの?と思うが、そのうちなんだかんだいいながら、遊びをみつけてわいわいやっている。子どもたちの世界は理解しがたいが、ケガすることなく過ごしてくれればよいと傍観する。あまりこちらから口出し・手出ししないほうがよいのだと私は考えて見守ることにしている。

学童の子どもは声が大きく、自己主張が激しい。フリースクールに通ってくる子どもはあまり大きな声を出さない。主張も少ないように感じる。エネルギー量の違いを感じている。